

当院の輸血業務の歩み

発表者氏名 松本 克也

施設 地域医療振興協会 市立奈良病院

市立奈良病院では、２００６年１０月日から開始された電子カルテ化に伴い輸血関連業務を一括して行う輸血管理室を設置し、当院の輸血管理業務に合わせて作成した製剤管理システムを２００６年１０月より運用開始した。

その後、従来は年間１回以下の開催であった輸血療法委員会を年間６回、定期的で開催している。毎回の輸血療法委員会では、製剤管理システムより得られたデータにて作成した過去２ヶ月間の製剤別月別使用数、廃棄数、診療科別使用数、廃棄数等の報告を行うと共に、輸血療法に関わる種々の問題の審議を行ってきた。

この審議の中で（１）血液製剤の使用状況（２）アルブミン製剤の使用状況とアンケート調査による改善（３）輸血前後の感染症検査の施行。これらの事項の実施は輸血用血液製剤の廃棄数の減少として、その効果が現れている。

本発表では、製剤の一元管理以前および以後の輸血用製剤の使用、廃棄状況と、製剤管理システムの使用および輸血療法委員会の定期開催の効果について報告する。